

## 大和証券グループ企業理念

### 信頼の構築

お客様からの信頼こそが、大和証券グループの基盤である。  
お客様を第一に考える誠実さと高い専門能力により、最も魅力ある証券グループとなる。

### 人材の重視

大和証券グループの競争力の源泉は人材である。社員一人ひとりの創造性を重視し、チャレンジ精神溢れる自由闊達な社風を育み、社員の能力、貢献を正しく評価する。

### 社会への貢献

金融・資本市場を通じて社会及び経済の発展に資することは、大和証券グループの使命である。法令遵守と自己規律を徹底し、高い倫理観を持って社会の持続的発展に貢献する。

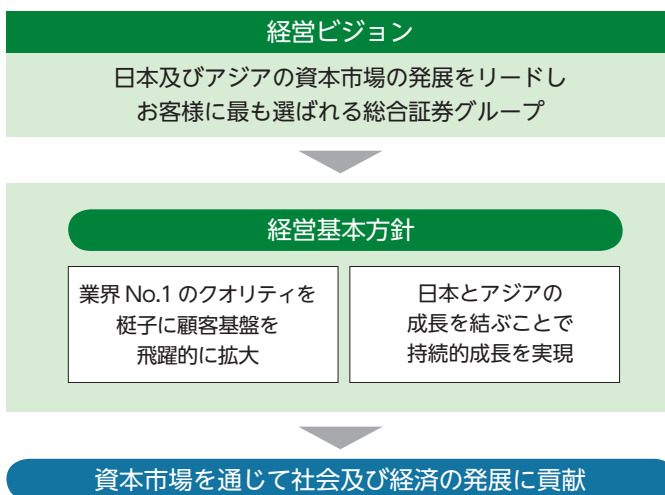
### 健全な利益の確保

健全なビジネス展開を通じて企業価値を高めることは、株主に対する責務である。大和証券グループはお客様に価値あるサービスを提供して適正な利益を獲得し、株主に報いる。

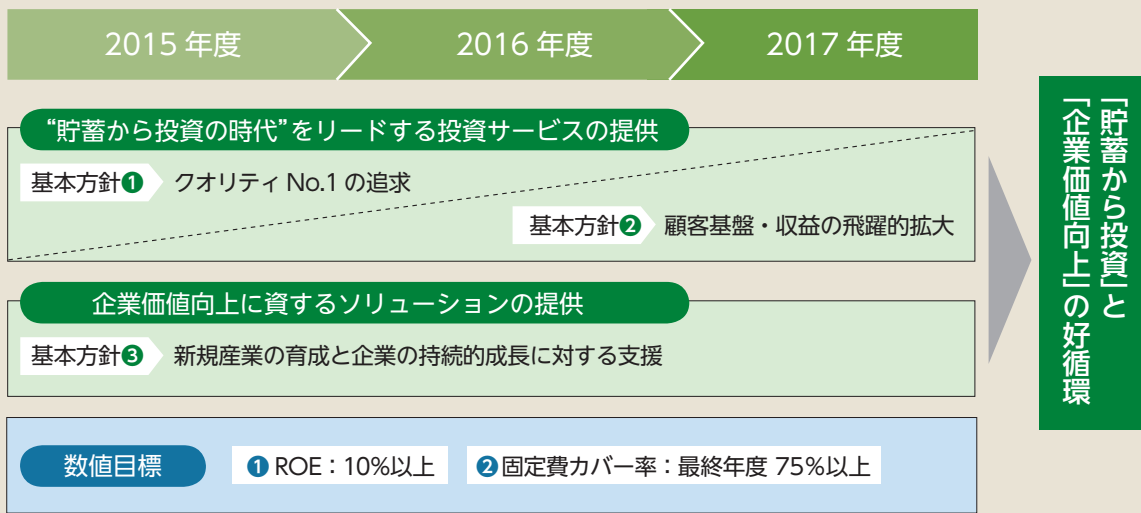
## 経営ビジョンと戦略

大和証券グループは、2017年度までを対象期間とする新グループ中期経営計画～“Passion for the Best” 2017～を策定しました。本格化する“貯蓄から投資の時代”のなかで、業界トップのクオリティによりお客様に選ばれ、ベストパートナーとなることを基本方針に据え、成長戦略を実施していきます。

これらの成長戦略と各施策を通して、持続的な企業価値向上を達成するとともに、グローバルな金融・資本市場の健全かつ安定的な発展を支え、持続可能な社会づくりに貢献していくことが、当社グループに課せられた社会的使命だと考えています。



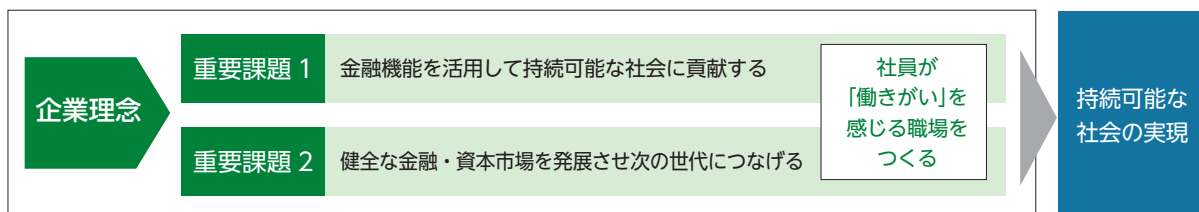
### 本格化する“貯蓄から投資の時代”の中で、業界トップのクオリティによりお客様を惹き付け、ベストパートナーとなる



## 大和証券グループ CSR 重要課題

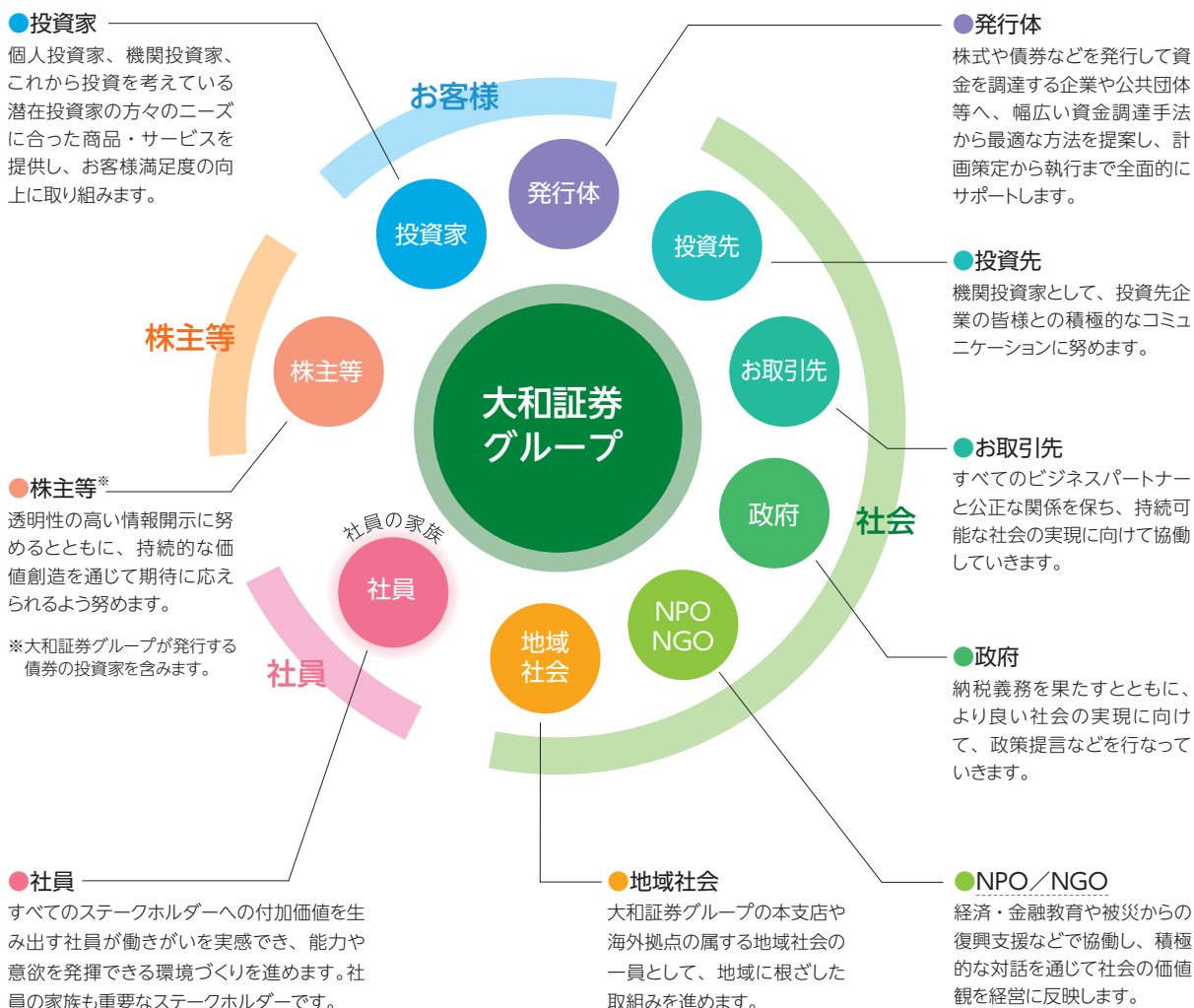
大和証券グループは、企業理念の1つとして「信頼の構築」を掲げ、金融・資本市場を通じて社会および経済の発展に貢献することが、自らの社会的使命であり、お客様と社会からの信頼が自らの持続的成長への源泉であると考えています。

以下の2つのCSR重要課題と、これらを推進するうえで核となる職場環境の整備を3つの柱とし、当社グループのCSR活動を推進しています。



## 大和証券グループのステークホルダー

私たちが永続的に社会的使命を果たし、かつ成長するためには、ステークホルダーとの強い信頼関係が必要不可欠であると考えています。



## CSR 重要課題の検証と社会的要請の変化への対応

大和証券グループではCSR重要課題の選定にあたり、社会の一員としてさまざまなステークホルダーへの責任を負っているとの認識を基本としています。一方、企業に対する社会的要請は、時とともに変化する可能性があり、重要な変化が生じているかどうか、当社グループの重要課題がこのような変化に込えているかどうかを継続的に検証する必要があります。

また、幅広いステークホルダーからの社会的要請は、多様化かつ複雑化しており、それらを考慮のうえ、バランスよく対応することがより重要であると考えています。

このような状況を踏まえ、当社グループでは企業の社会的責任(CSR)に関する動向を、適切に把握し対応するために、国内外のCSRに関する社外イニシアティブに積極的に参画し、さまざまな規範を活用した取組みを進めています。そのなかでも以下については特に重視しています。

### 当社グループが考える重要な社外イニシアティブ

● 国連 グローバル・コンパクト (2010年に署名)	
人権	 原則 1: 人権擁護の支持と尊重 原則 2: 人権侵害への非加担
労働	 原則 3: 組合結成と団体交渉権の実効化 原則 4: 強制労働の排除 原則 5: 児童労働の実効的な排除 原則 6: 雇用と職業の差別撤廃
環境	 原則 7: 環境問題の予防的アプローチ 原則 8: 環境に対する責任のイニシアティブ 原則 9: 環境にやさしい技術の開発と普及
腐敗防止	 原則10: 強要・賄賂等の腐敗防止の取組み
● ISO26000 ● 日本経済団体連合会・企業行動憲章 ● 国連 ビジネスと人権に関する指導原則	

また、以下についても、その国際的な重要性に鑑み、今後、当社グループの事業活動への関連性を考慮のうえ、活用していく方針です。

### ● OECD 多国籍企業行動指針

## 株主価値の創造との両立について

私たちは、CSR活動を推進していくなかで、事業活動を通じた取組みを重視しています。この取組みは、社会課題の解決の一助となると同時に、手数料収入という株主の皆様に対する有形の価値が生じます。また、事業活動における環境負荷低減活動の成果であるエネルギーコストの削減も有形の価値の一例です。

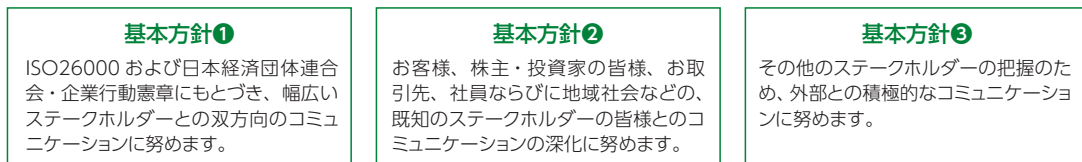
株主の皆様に対する価値は有形のものだけではなくありません。ステークホルダーの一員として、お客様からの信頼や従業員の士気向上、コーポレート・ガバナンスやコンプライアンス体制の充実、株主の皆様に対する無形の価値の例といえるでしょう。

一方、CSR活動は、ステークホルダーの皆様や株主の皆様への有形・無形の価値を生むだけでなく、コストも発生させます。一般的な事業活動と同様に、CSR活動においても、企業が保有する人的資源などの限界から、活動量が増大すると急激にコストが上昇する可能性があります。コスト軽減に取り組みつつ、費用対効果の検証も、株主の皆様への価値を考えるうえで重要であると、私たちは考えます。

大和証券グループでは、今後もCSR活動を通じ、ステークホルダーの皆様様の様々な期待に込え、株主の皆様への価値を生むことを目指し、実践していきます。

## ステークホルダーとのコミュニケーション

時とともに変化する社会的要請の把握にあたっては、ステークホルダーとのコミュニケーションが重要な役割を果たすため、以下を基本方針としています。



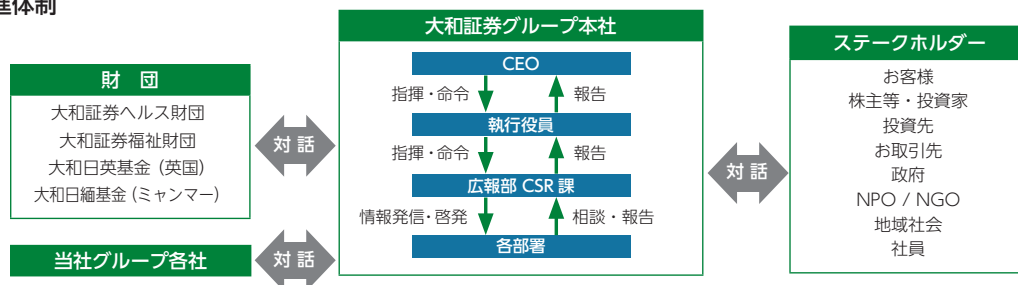
## CSR 推進体制

持続可能な社会の形成と経営ビジョンの実現に向け、役職員は、業務のなかで企業理念の実践に努めています。

大和証券グループ本社内に設置された広報部 CSR 課では、CEO の指揮下で CSR を担当する執行役員（広報担当）の指揮・命令のもと、社内外の会合等での情報収集や対話を積極的に行ない、会議等で報告することにより執行役員と定期的に CSR 課題および進捗状況を共有しています。

そして、大和証券グループの新入社員合同研修での講義のほか、各部室店や海外拠点への CSR 意識の浸透、協力体制の構築を進めています。

CSR 推進体制

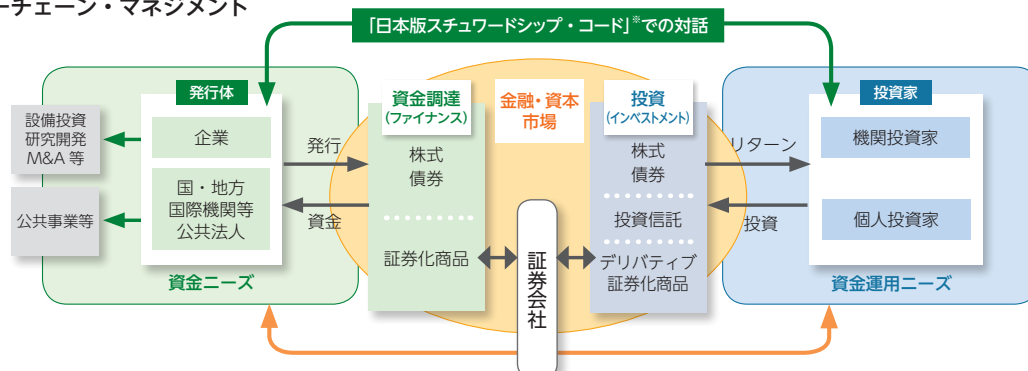


## 健全なバリューチェーンの構築と維持

大和証券グループにとって、株式や債券等の有価証券は中核的な金融商品であり、有価証券を発行する企業および団体、ならびに有価証券への投資家の双方が重要なお客様です。金融・資本市場を持続的に発展させるため、持続可能な社会の構築へ配慮しつつ、健全なバリューチェーンの構築・維持に努めることは重要な責務であると考えています。また、アセット・マネジメントおよび運用商品の販売も主力業務の1つです。アセット・マネジメント部門では、責任ある機関投資家の一員として、投資先に対し、ESG ファクターへ適切に配慮した中長期的な持続的成長を促すことによって、良好なパフォーマンスの実現を目指しています。

一方、反社会的勢力を取引先から排除すべく、グループ各社における規程やデータベースの整備を行ない、バリューチェーンからの反社会的勢力の排除を行なっています。

バリューチェーン・マネジメント



※P.18「責任ある機関投資家として」をご参照ください。

## 大和証券グループのCSRにおけるマテリアリティ(重要側面)の特定

当社グループでは、GRI ガイドライン第4版を念頭に、総合証券グループとしてのビジネスモデルに合致したCSRにおけるマテリアリティの特定を行ないました。

マテリアリティの特定にあたっては、当社グループの活動を「お客様への良質なサービスの提供」、「社会・経済インフラである金融・資本市場の担い手」および「社会の一員」の3つの観点から整理し、社外専門家の意見を得つつ、グループ内で議論しました。

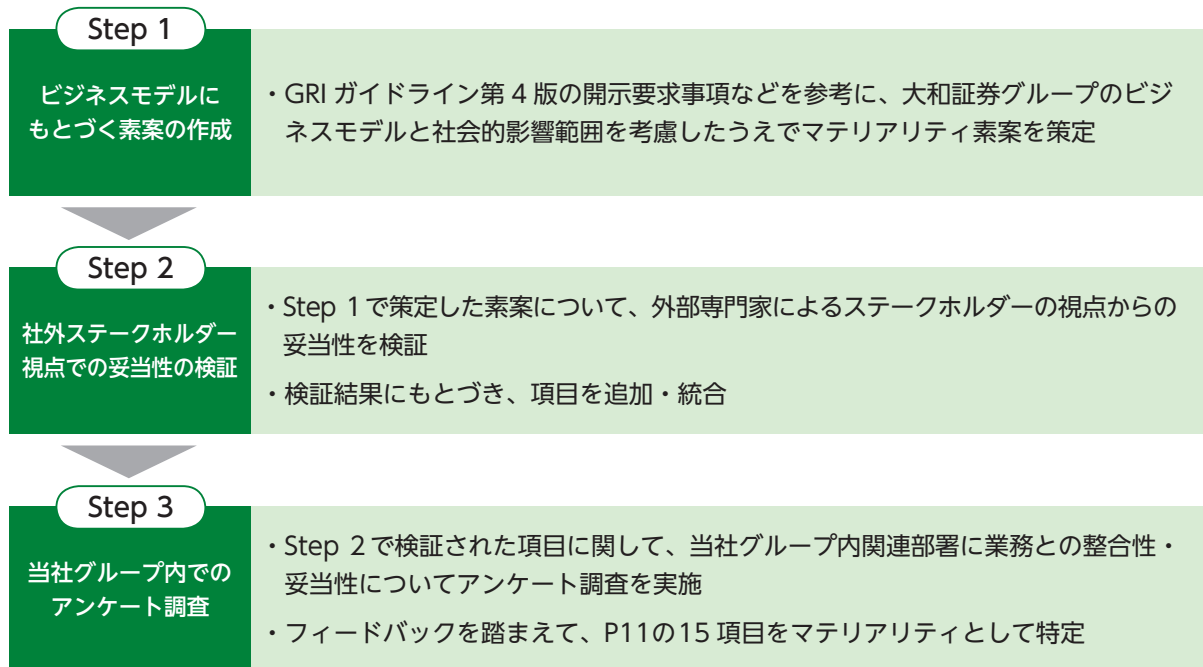
### 【特定されたマテリアリティ】

- I. お客様属性・ニーズに応じた適切な提案とアフターフォロー
- II. ホスピタリティあふれるお客様への対応
- III. 良質な金融・投資商品の開発・提供
- IV. 経済・社会および投資情報についての分析・提言の発信
- V. 金融・資本市場機能の維持・発展
- VI. 適切なリスク管理
- VII. お客様情報の適切な管理
- VIII. 強靱なシステム構築と維持
- IX. 機関投資家としての責任ある行動
- X. 人材育成と従業員の多様性に配慮した職場づくり
- XI. 自己規律にもとづいた国内外の法令・規範の遵守のための企業風土醸成  
(腐敗防止・人権問題への適切な配慮を含む)
- XII. 環境負荷軽減と環境変化への対応
- XIII. 社会問題の解決、未来の社会および金融・資本市場の発展のための取組み
- XIV. 地域社会への貢献
- XV. 適切な企業統治（コーポレート・ガバナンス）体制の構築と維持

今後、当社グループは、これらのマテリアリティに関し、取組みの情報開示を行なっていきます。また、ステークホルダーの皆様からの期待や社会情勢の変化について、エンゲージメントを通じた把握に努め、必要に応じた見直しを実施していきます。さらに、「CSR 重要課題」についても、マテリアリティの変化に応じた検証を行ないます。

## マテリアリティ特定プロセス

GRI ガイドライン第 4 版に示されたプロセス等を参考に、以下の手順を経てマテリアリティを特定しました。



### マテリアリティ特定にあたって

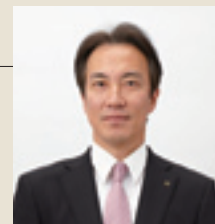
大和証券グループのビジネスモデルにとって、「お客様への良質なサービスの提供」と「金融・資本市場の維持・発展への貢献」がもっとも重要であると私たちは考えています。そして「社会の一員」として、さまざまなステークホルダーの皆様からの、企業へのご期待に対し、バランスの取れた対応を行なっていきたいと考えます。

このたび、GRI ガイドライン第 4 版への移行に際し、当社グループにとって、真に重要なことは何かを考え認識する有意義な機会と捉え、マテリアリティについてこの 3 つの観点から原案を作成し、グループ内の意見を得ました。

主な論点としては、マテリアリティは業務に密着した事項であるがゆえに、当たり前すぎるように感じられるという意見がある一方、社会の一員としての立場を企業はどこまで果たすべきか、また、コーポレート・ガバナンスのようすべて

大和証券グループ本社  
執行役員

**金子 好久**



の企業に求められる事項を、グループにとっての重要事項とすべきか否かなどが挙がりました。

最終的には、15 の項目を当社グループの CSR におけるマテリアリティとして特定しました。この作業を通じ、私たちがこれまで指針としてきた CSR 重要課題が有効であることを再確認し、当社グループの事業における地道な活動が、私たちの社会的責任に直結していることを改めて認識できたことが、大きな成果であったと考えています。

今後、私たちはマテリアリティについて、継続した検証を行なうとともに、各分野での成果をご報告していきます。